

令和5年度大磯町補助金等評価委員会 議事録

○日時 令和5年5月13日（土）9:00～12:00

○場所 大磯町保健センター 2階研修室

○出席者 委員5名出席

○事務局 町民課長、町民課担当職員

○傍聴者 8名

○会議記録

1. 議題

(1) 委員長、副委員長の選出について

○山岡委員が委員長、菅原委員が副委員長に決定。

(2) 令和4年度町民活動推進補助金事業結果報告について

○令和4年度報告事業ナンバー①

◆報告団体：大磯古道山道つなげ隊

◆事業名称：大磯古道山道復活事業

◆事業効果、実施内容：実績報告書、収支決算書のとおり

◆補助金の交付額：96,550円

◆質疑応答

【委員】御報告を聞かせていただきまして、皆さんが今注目しているSNS等も上手に利用された中で活動の幅を広げ、結果として、見えるような形の活動をしていただけたところが凄くわかりやすく、きっとこれが繋がっていくことで、町の中が活性化していくのかなという印象を受けました。報告にあった寄附が、どういった形で入ってきたのかがこの収支決算書の備考のところにはっきりと書かれていなかったもので、ここでは大磯市で集められた総額というわけではなく、これ以外にも収入として寄附がいただけたという中で、予定されていた補助金事業以上の効果が出せたと認識して間違いないでしょうか。

【団体】そうです。不法投棄ゴミの回収費の見積もりが298,000円でして、それを目標に大磯市で募金活動をしまして、全額集めることが出来ました。

【委員】そうすると、この11,245円という寄附金というのは、大磯市で集めたゴミの回収の為の寄附とはまた別の寄附を団体として受けられたと

ということでしょうか。

【団体】 いただいた寄附の一部を活動費にあてています。

【委員】 わかりました。ありがとうございます。

【委員】 非常にユニークな活動ですし、1年間でここまでやられたということで、正直感心しております。参加者が200～300人ほどで活動し、SNSで発信していて、資金の調達というのでしょうか、30万円も集めていらっしゃるとの事で、すごく良いことだと思います。引き続き頑張っていたきたいと思いますが、古道が復活して古道で散歩された方たちはどんな方たちが来られているのか、その方たちの感想とか、御意見があれば、お聞きしたいのですが。

【団体】 近所の方々が、「昔のここはこうだったんだよ」と言いながら来てくれたりとか、ずっとゴミとか、そういったものがあって、こんなだったけど久しぶりに来たわとか、あるいは、新しく引っ越されてきた方が初めて来て、「こんな近くにこんなところがあるなんて」など、来る年代の方もまちまちです。

【委員】 そういったことであれば、やりがいを感じていただけるのではないかなと思います。ぜひ、引き続きこの活動をやっていくこと、こういう場所が町民に活用できるんだよということをますます発信していただきたいと思いました。

【委員】 これは、補助対象として令和4年度1回限りということでしょうか。3回まで受けられますが、今回限りということでしょうか。

【団体】 実は次年度もお願いしようと思っていたのですが、活動全体が同じルーティーンワークではなくて、次は別の場所で活動して行こうと思っています。そこでは、ゴミがあるのか、ないのかもまだわからない状態で、全体の活動費が見えない中で半額の補助という予算作成が非常に難しく、例えば3～5万円の補助をしてくれるところを探してほしいように考えています。

【委員】 では補助金に頼らず、寄附という形で続けていくのでしょうか。

【団体】 寄附もそうですし、町とは別の助成金もいろいろあります。もし、町で3万円ですとか、5万円とか少額でもいいので、半額ではなくてもいただけるような制度があればうれしいなと思います。

【委員】 大変良い取り組みなので、ぜひ続けていただきたいです。1年だけではもったいないなと思ったので質問させていただいたきました。最後

に、埋まっている古道はまだあるのですか。

【団体】あります。古道ではなくても、農道として使っていたけど、今、そこで農業していないから藪に覆われているところもあるし、皆さん知らないところもたくさんあるのですが、ハイキングコースに載せるほどではない感じで、誰も知らない。地元の人しか知らない道はたくさんあります。

【委員】では、それを通れるようにすることが目的なのですね。

【団体】そうです。

【委員】ありがとうございました。

【委員】古道ですから、おそらく行政の道、それから民地、その調整の難しさを身に感じながら、その辺の苦労や挑戦をどのようにしてきたのかをお聞きしたいです。民地の土地を勝手にいじるわけにいかないのです。その調整が1つと、せっかくきれいになった土地をどう維持管理して繋げていくのか。私も奉仕活動のクラブに入っています。1回スタート切ると維持管理が何十年も続けることになります。開地したら地元へ渡すということをやっています。その辺が難しいのかなと思います。せっかくきれいになった道をこれからどうやって維持管理していくのか。民地と行政の調整は苦労されたと思うのですが、その辺をお聞かせいただきたい。

【団体】維持管理ですが、例えば、コンクリートの道は壊れていても役場に電話して、やってくださいとお願いするのですが、あそこは「つなげ隊」のメンバーが階段を作れるようになったし、斜面の起こし方もわかるようになってきましたので、皆が散歩する時に少しづつ直せます。メンバーは大体今の土地の周辺住民ですので、犬の散歩の時などに少し直すという維持管理はあるけれども、手軽にできるということが良いところかなと思っています。あと、住民との調整ですが、それが実は大変であり、理解を求めるためにコミュニケーションをとるということは、煩わしいことではありますが、大切なことかなと思いますので今後も行っていきたいと思っています。

【委員】良いことですので、頑張ってください。

【団体】ありがとうございます。

【委員】維持もメンバーの方で行っているとのことで、こちらのプリントで、質問ではなくなってしまうのですが、町の方に良い影響が出ていると思

うので、全活動費の定額補助、投棄ゴミ撤去の協力、地権者や赤道の所有者の調査協力を町で検討していただけたらと思います。せっかくですから、維持管理もできそうですし、SNS で歩いてみたいなという方、町外からいらっしゃる方がたくさん増えるかもしれません。計画書を見てみると2年目、3年目で、金剛山ルート、神揃山ルートとどんどん繋げていっていただきたいなと思います。

【委員】 会員は今何人くらいいますか。

【団体】 22名です。

【委員】 スタートした時から増えていますか。

【団体】 スタートは1人です。

【委員】 それでは今年1年間でそれだけ増えたということでしょうか。

【団体】 そうです。

【委員】 これから少しずつ増やしていきたいですか。

【団体】 そうですね。散歩などの移動するときに、地元の人に管理も含めてやってもらいたいです。だから、整備場所も移動したら、移動した場所で増やしていきたいです。

【委員】 もちろん、地元の人をお願いしたいということはあるでしょうが、里山保全に関心のある人って、大磯以外にもいると思うのです。SNS で発信していくと、横浜などからでも関心がある人がいたりするのかもしれないので、そういうメンバーを増やしていくと、会費もある程度集まり、安定的な活動ができる基盤ができる可能性はあるかなと思います。逆に地域の人たちと、外からくる人たちとのコミュニティづくりについても、目指す方向として、可能性もあるのかなと思います。

○令和4年度報告事業ナンバー②

◆報告団体：一般社団法人 海鈴大磯

◆事業名称：「ふるさと回帰支援センター大磯」大磯移住・定住支援事業

◆事業効果、実施内容：実績報告書、収支決算書のとおり

◆補助金の交付額：250,000円

◆質疑応答

【委員】 移住といふとなかなか大変な作業だと思うのですが、いろいろテレビで見ますと、空き家利用というのか、大磯町も今空き家が多くあると思いますけど、それにかかる費用は移住者が自分でリニューアルすると

いるのですが、行政とコラボした紹介で関心がある人が来た時、プレゼンテーションの形ができていますか。また、行政とのつながりはできていますか。

【団体】 役場の政策課と定期的に情報交換を毎月行っていて、それ以外にもその都度誘致から来られた方の物件紹介については、都市計画課がやっている空き家バンクを紹介しています。なるべく空き家バンク以外にも紹介できる物件があれば紹介したいのですが、私ども不動産屋ではないので、今具体的に我々の移住支援の活動と一緒に動いてくれる不動産屋とコンタクトしておりまして、その方たちに意向にあった不動産屋物件を紹介してくれるような体制をこれから作っていきたいなと思っています。

【委員】 小磯あたりから山側の国府側というのは、だんだん過疎に近づいてきています。駅周辺はそこそこだと思いますが。ですから、山の方の移住者と言いますか、そのような興味のある人達にもう少しアピールして、どちらかという、国府の方が平均的に人が増えてくるといって大磯町にとってはいいのかなと思います。

【団体】 移住候補者の中にも、コロナの影響で都心へ通勤しながら、リモートしながら生活しているよといった人たちがいらっしゃるのですが、変えたいという人がいらっしゃって、例えば、大磯の畑を借りて、野菜を作りながらそれを調理してやりたいと。今日も午後から案内するのですが、生沢あたりに物件がないですかね。僕らも気が付かないのですが。新しい事業をやりたくて別に道がなくてもいいよとか、逆に畑ができたらいいいよという方もいらっしゃいます。人それぞれなので、探していきたいと思います。

【委員】 神奈川県も移住を促進していて、セミナーも開催していますが、先ほどもセミナーが大盛況だったとのお話だったのですが、大磯町の海鈴に来る方って大磯町にどんなことを求めているのでしょうか。

【団体】 今、おっしゃったイベントというのは、「ふるさと回帰支援フェア」になります。このフェア自体が、日本全国津々浦々のブースがありますので、もちろん大磯町だけということではないのですが、先ほど出ていましたように、一番の関心事は物件があるかどうかなんです。住む場所があるんだろうかということがまずは一番の関心事で、それから今回非常に目立ったのが、写真にもありますように若い子育て世代の方々なん

で、子育てに関するサポートがどうなっているのか。それから、このフェアが地方ですと移住するとお金がもらえるというような、過疎の山村の市町ですとそういったことをやってらっしゃるので、大磯町は移住するとお金もらえるのですかという質問も多かったと思います。ただ、これに関しては、移住支援金目当てで移住する方は定着しないという話は、会の中でも出ていますので、私たちもそんなに気にすることなく対応させていただいています。今回は小田原より大磯の方が相談者が多かったくらいに感じています。

【委員】 事業決算書の中では、お試し移住宿泊施設の修繕費とありますが、お試し移住施設の利用状況やリフォームしたことによって利用者が増えたとか、そういう実績等があれば教えていただきたい。

【団体】 お試し移住宿泊施設につきましては、正式に運用を開始していませんが、去年は、トライアルとして何件か来て泊まっていただきました。二宮町との共同事業として、空き家活用の具体的なルール作りとお試し施設を今回から具体的に運用を開始しており、そのためのルール作りとか施設の手直しを行いました。

【委員】 施設の費用を投資型のクラウドファンディング事業者に委託したが断念と書いてありますが、その経緯、理由とか、計画になかったことがどのくらいあるのか教えていただけますか。

【団体】 投資型のクラウドファンディング事業者と知り合ったのが、大磯町で主催した空き家活動プロデューサー育成勉強会で、私も参加していました、そこに引っ越してきた会社がその事業者だったのですが、あちこちにいろいろお試し住宅をやっているとのことだったので資金集めを任せてみたんですが、予定より全く進んでいないということもありまして、経過を見ていましたら、私たちが期待する形ではなかったものですから、6ヶ月たってから契約を切りまして、今できる範囲で自分たちでやってきました。

【委員】 報告書の中の特記事項ですが、クラウドファンディング事業者の委託を途中で中断されたということで、それを自前でリカバリーする代わりに、予定していた動画の作成やパンフレットの作成は見送ったということなのですが、逆に言うと、これを使って活動しようと思っていたことがあったと思うのですが、できなかった影響とか、逆に工夫して挽回した点等があれば教えてください。

【団体】クラウドファンディング型というのが非常にわかりづらいと思うのですが、単純に言うと、よその会社がお試し移住施設を運営してくれるのも含めた形で別の会社がお金を集めて運用してくれるというタイプのものであったのですが、結果、先ほど申し上げましたように、経過を見てみると思うように進んでいなかったというのがあって、希望としてはその会社が継続してやりたいとのことだったのですが、このままでは、もっとお試し移住施設の開設が遅れてしまうということもあって、そこは断念という形になりました。御質問のできなかった動画やパンフレットに関しては、途中、前年度に作ったものですか、簡易的なものを利用して、こういったフェアやツアーには、資料としてお客様にお渡ししました。また、動画作成につきましては、具体的に今年度は着手できなかったのですが、県の補助事業で、町の方に動画作成の作り方、アドバイザーという形で、約5回の講習を受けました。それが、昨年からは始めて3月くらいまで定期的に各2時間くらいかけてプレゼンテーションを受けましたので、それを元にさらにコストも抑えた形で動画を自分たちでどうやって作成するか、また、私たちにも少しできたらなと思っていますので、今後の制作に繋げていきたいなと思っていますところでは。

【委員】お試し移住施設については、まだ実際入ってもらってはいないということですか。

【団体】お試し移住施設は、トライアルとして、昨年度5組くらいの方が泊まっています。

【委員】一応住める状態にはなっていて、入ってはいるということですか。

【団体】お試し移住施設とは言っても、他の市町のように例えば1ヵ月とか2ヵ月とか長期的にお住まいになるというタイプのものではなく、1泊2泊で泊まっています。さらに「社団法人海鈴」で町歩きの御案内も一緒にしたり、宿泊場所としての活用でございます。今も整備を進めておまして、例えば1週間、1ヵ月というのはなかなかないかと思いますが、若干、長期の滞在をしていただけるような形で今部屋ですとか、トイレですとか、玄関ですとか、様々なところでボランティアを募りながらPRをしているところでは。

【委員】宿泊施設の部分は完成しているが、他のところはこれからということですか。

【団体】ほぼ完成しています。これから、鍵をつけたりとか、何らかの形で

民泊でも旅館でもいいので形にしないと進みません。今のところ民泊で申請しようとしていますが、それに基づいたチェックする部分がありますので、その準備をした上で正式な利用をしていきたいと思います。

【委員】体験ツアーをやっていただいたり、ふるさと回帰フェアなどを行っても、すぐに移住とはならないのだとは重々承知していますが、今年度の実績として、こういうところから移住につながったとか、あるいはつながりそうで現在進行形とか、数がわかれば教えていただきたい。

【団体】体験ツアーには十数件あるのですが、ほとんど皆さん移りたいんですが、物件がないというのがいちばんです。彼らが希望する物件が大磯で紹介できないという、非常に残念なのですが、空き家はあるが、空き家を持っている人が売りに出さないのです。

【委員】検討中の方が10数件あっても移住に至らない理由が、物件の問題ということですか。

【団体】それが多いです。とりあえず賃貸で、いい物件が見つかったらそこに新築を建てることもあります。また、住民票は移動していないかもしれないというケースもありますが、それでも3、4件です。

【委員】先ほどもお話あったように、物件がボトルネックになっているとのことでしたが、不動産関係との連携がこれからの課題でしょうか。

【団体】具体的にそういった形で連携していこうと動いています。要するにこちらの目線と一緒に動いてくれる不動産屋さんです。

【委員長】ありがとうございました。これにて、平成4年度町民活動推進補助金事業結果報告会を終了させていただきます。

(2) 令和5年度町民活動推進補助金事業採択に係る審査について

○令和5年度審査事業ナンバー①

◆申請団体：コーロ・アイビー

◆事業名称：女性コーラス事業

◆事業効果、実施内容：企画提案申請書、収支予算見込書のとおり

◆補助金の交付額：61,000円

◆質疑応答

【委員】収支予算書を見ていて、支出が謝金と消耗品費だけだったので、練習場所はふれあい会館ということなのですが、ここは費用がかからないのですか。

【団体】ふれあい会館をなぜ選んだかと申しますと、練習会場が皆近いんです。最寄りの集会所と申しますか。それが第一です。そして、高齢者枠で無料で使用できますので選びました。

【委員】今、構成員は何名ですか。希望者がいたら増やしていきますか。

【団体】希望する方と言われましても、歌を嫌いな方はいらっしゃらないと思いますが、楽譜がわからないという方はいらっしゃいます。一からというのは無理なので、やはり少し歌える方でないと入っていただけないなというところもあります。

【委員】ある程度のレベルが求められるということでしょうか。

【団体】そうです。

【委員】収支の予算書を見させていただいていますが、会員の方からは、会費の徴収をされていないのでしょうか。

【団体】会費は1ヵ月1,000円いただいております。これだと月1回しか謝金が払えませんでしたので、先月1,500円にして、7人ですから、指導者に1回5,000円で、2回で10,000円をお支払いしようということになりまして、講師にはお伝えしました。とても安い謝金で申し訳ないのですが、団員が増えたらもう少しお払いできると思いますということで許していただいております。

【委員】そうすると、収入はもっとあるということになりますか。今、収入の部の会費はなく、事業収入もなく、寄附もなく、町からの補助金を61,000円、その他、自己資金の部分が1人1,500円ということですか。

【団体】それ以外には全然収入はないんです。ですから、私たち練習曲集を作っているのですが、それも全部自腹。自分たちがお金を出し合っている状態です。もし、補助金がいただければ、指導者にも少し謝金が支払えるというような考えです。そんなに大きいことは考えていないというのもおかしいですけど、本当に私達の一番初めの志がそういう風に町のためとか皆のためとか、全然考えていませんでしたので、そこを迷いました。もし、申請して、町の為にも活動ができるようになるかしらという思いはあります。

【委員】繰り返しになってしまっただけで申し訳ないのですが、この予算見込書の中の自己資金というのは、会費とイコールというわけではないのですか。

【団体】そうです。私たちの自己資金としても半額。町から6万円いただけたら、半額は私たちが自己資金で自分たちの会費として出すとい

うことです。

【委員】わかりました。あと、前の質問にもあったのですが、楽譜の読めない方については入会が出来ないということではありますが、町民活動の推進補助金になりますので、やはりこの活動に補助をつけたことによって、町への還元であったり、地域の活性化であったりですとか、そういったところをしっかりといただける団体さんなのかということをお私たちとしては見ていかなければならないのですけれど、今回のビジョンとして、老人ホームとかそういったところにも行ってみたいなどというような計画はあるようですが、その辺はどういう風に事業立てをされているのか教えてください。

【団体】実際には、私高麗に最近住むようになりましたので、そこの集会所で色々グループ活動していますので、例えばそういうところで皆さんに歌を聴いてもらって、みんなで一緒に歌声を出すという活動が一番身近にあるかなと今は思っています。過去に大磯の老人ホームに行っていたりしましたので、そういうところにもアタックしてみようかなと今は思っています。

【委員】そのような団体ですと、生涯学習の分野になると思うのですが、そのような団体登録は6団体くらい所属していると聞いておりますので、団体同士でコラボして補助金申請ということは考えられないのですか。1団体だけというのは公平性に欠けるので。まず、それが一つです。それと、先ほど言いましたように老人ホームとか、敬老会なんかは、よく町からこういう事業がありますという無料で来ていただける落語家だったり、手品師だったり、ボランティアで活動している人たちを紹介しています。そういうところに積極的に出ないと、町の貢献度としては低くなってしまおうと思っていますので、その辺の考えはどうですか。

【団体】PRですよね。老人会、馬場の敬老会のようなところに、私たちが前にいたグループでは行かせてもらいましたけれど、自分からPRをしてということはあまり今は考えていないのですが、地域の人同士でこういうグループをやっているということがわかってくれば、自然とそこでお願いしようかぐらいはあると思うのですが、それをこちらからというのは今は考えられないです。というのは、まだまだ歌声が出来たばかりで歌えないというところもあるので、これから育っていかねばいけないグループです。

【委員】先ほども言いましたが、複数の団体でコラボして1つの団体にして、補助金申請ということも考えられませんか。

【団体】私そこまではちょっと実際には行動できる段階ではないと思っています。だから、もう少し団として7名のコーラスが何とか人前で歌えるようになれば、それは可能かとは思いますが。

【委員】指導者は、おひとりの方ですか。

【団体】おひとりです。本職が作曲家の方で、大磯に住んでらっしゃって、私たちとも顔見知りです。若いのですが、ピアノも弾いてくださって指導もして下さって、願ってもいない指導者だと思っております。

【委員】月1回ではなく、2回はぜひということですか。申請した理由というのは。

【団体】まだ先生がそんなに忙しくないときに一度お願いしたのですが、御都合がつくときは指導して下さるということになり、私たちがふれあい会館の空いている日にちと先生の御都合を考えて、月2回お願いしています。

【委員】月1回よりは月2回の方がより習熟度が高いということですか。

【団体】そうです。2回とも指導者が見てくだされば、力は全然違います。

【委員】先ほど団員は楽譜を読めないというお話があったのですが、今現在、新たなメンバーの募集はしているのですか。

【団体】今はしていません。まず、文化祭に1回参加して、その成果でどなたか入ってくださるとか、問い合わせがあるかなというくらいのところですが。本当は増やさなければならぬのですが、今はまだ考えていません。

○令和5年度審査事業ナンバー②

◆申請団体：一般社団法人 海鈴大磯

◆事業名称：「ふるさと回帰支援センター大磯」大磯移住・定住支援事業

◆事業効果、実施内容：企画提案申請書、収支予算見込書のとおり

◆補助金の交付希望額：250,000円

◆質疑応答

【委員】先ほどもお伺いしたのですが、空き家などや地域に関心を持たれている方と地域コミュニティがどうやってコミュニケーションをとっていかかですが、大磯町全体のことはわかるのだけれども、地域ごとの紹

介だとか、地域に根差した紹介は、どのようにされていますか。

【団体】高麗はお祭りもありますし、どちらかっていうと昔からの伝統的なものというよりは、最近皆さんが初めてきた大磯オープンガーデンとか、大磯市があり、大磯はそのような活動を見せに連れて行って回っています。

【委員】私も田舎の方に住んでいるので、新しく入ってきた人たちと交わらないとか、それをいかに交わせるかというのに非常に苦労しています。ですから、いろんなイベントに引っ張り出したり、役を与えたりして、地域の人とコミュニケーションをとるような活動はします。なかなか移住についても、地域と交わらない限り、移住してもまたすぐ出て行ってしまうことがあるので、具体的に取り組んでいることはありますか。

【団体】移住支援ということで、移住をしてきてもらうところまでではなくて、実際に移住をして来られた方に、もっと大磯ってこんなところでもいいよという発信を一緒にお手伝いをしてもらったり、引き続きイベントに参加してもらったりして、移住できたからそれで終わりではなくて、法人でコミュニティ活動を続けておりますので、その輪が広がることで仲間に入ってきてくださっています。ですから、例えばその各自治体の特徴、この時期だとこんなことがあるという話もお伝えして、一緒にやらないかというお誘いもしています。

【委員】団体の年間予算 120 万円、この中に移住事業の予算が大体 50 万円位で、今年が補助 3 年目で最後ということで、来年は事業縮小となってしまうのか、何かあてがあるのかを聞かせてください。

【団体】我々の活動はこれからもお金がかかると思いますし、ほかの自治体ですと、大概このような活動については費用を出してくれる自治体もあるかと思います。大磯町はそれ以外の段階ですので、もし補助が無くてもできる形を考えるために、さっき言った民泊お試し施設をやって、お試しではない普通の民泊もあるので、そのような仕組みを取り入れてプラスになるかなと思っております。町の介護事業などもやっていますので、コツコツと運営資金を作っていきたいと思っています。

【団体】町の移住促進に関しましては、町の予算で行うべきではないですかという質問を前回、前々回、委員の方からいただいたように記憶しています。今年を含め 3 年間の活動の中で行政サイドと太いパイプができ、活動の内容を御理解いただいたと思うので、是非ともシフトできるとこ

ろは町の予算の中で予算化していただけるように、今年1年間さらにプッシュをしていきたいと思っています。

【委員】 御説明にあった内容と関連するところですが、前から町としても取り組みを強化しているものであれば、町民活動の推進ではなく町の事業化されたものとしてやっていかななくてはならないのではないかというお話があったかと思います。今年度3回目の補助になりますので、この3年間の総括する年度になってくるかと思います。移住を希望される方、大磯にいらっしゃる方に対して、こういった形で説明をしていかれる予定があるのか、また、今年度実施される事業の中で町と関係がある部分、県との関係がある部分のすみ分けはどのようにされていくのかを教えてください。

【団体】 ほとんど町と関係しているものばかりですが、大磯すてき発見体験ツアーは我々が企画していますけど、広報については町にチラシを置いてあります。そのため、役場に移住希望の方が来た場合には、案内していただいています。ふるさと回帰フェアについては、町も予算を計上していますので、我々はお手伝いで参加させていただきたいと思っています。あえてお願いしたのは、大磯町移住のための施設ができますので、活用については町の方も積極的に寄与していただけたら幸いです。自治体によっては、施設の管理を民間に任せている団体が多いのですが、大磯町の場合は、民間化は難しいのかなと思います。

【委員】 関連してですが、お試し施設を令和4年はトライアルで行い、今年度から動かしますということですが、その事業収益が収支の中には入ってきていないのですが、まだ事業収益がないのか、それともこの事業の経費に入れていないのか、どうですか。

【団体】 事業収益は一般社団法人の会計に入れていますが、すでに150万円くらい投資しています。

【委員】 ここには載せていないということですね。

【団体】 はい。

【委員】 修繕費も町から出ていますので、収支は見えるようにしていただく方が、町がこれだけ直したけれどもそれよりこれだけ高いんだよと見えるようにしていただく方がいいと思います。

【団体】 全部計上すると収支のバランスがおかしくなると考え、修繕費については、今まで500万円くらいは投資しているので、計上できる最低

限のものだけを計上しています。

【委員】わかりました。ただ、町の補助金事業としている以上、それ使って移住施設はどうなっているのかは、我々としても気になります。

【団体】付け加えさせていただきます。トライアルで前年度使いましたよという話をさせていただきましたが、今年度スタートとしてすぐにお試し移住に利用者費用を払っていただくかどうかというところもまだ検討中の段階でございます。フォーラムやイベントに絡め、場合によっては無料で使っていただくことを念頭に置いているため、今、計画ではっきりとこれだけが事業収入になるというところが、今年1年はまだ見えていません。今年でその組み立てをして、次年度でしっかりと収入収益がどれだけ出るのか、活動をやっているのかを組み立ててまいりたいと思っています。

【委員】わかりました。ありがとうございます。

【委員】会費が1万円ということですが、おそらく、一般社団法人の社員としての会費ということで、それ以外に何か賛助会員とか、それらの出資とかはこちらでは特にはないですか。

【団体】磯人ネットという会のメンバーは社員ではないです。イベントをするときに一緒に手伝ってくれる有志の方は今20人くらいいるのですが、ボランティアでお願いしています。

【委員】会のプログラムや活動を通して、移住された方がこの活動は必要だという認識があって、賛助会員のような仕組みがあれば会員になるのではないかなと思いました。

○令和5年度審査事業ナンバー③

- ◆申請団体：大磯町携帯電話基地局研究事業
- ◆事業名称：自然環境事業
- ◆事業効果、実施内容：企画提案申請書、収支予算見込書のとおり
- ◆補助金の交付希望額：80,000円
- ◆質疑応答

【委員】町民活動団体概要書で、植物や野鳥の環境調査をする記載をいただいているのですが、メンバーの中に専門知識のある方がいて、活動のサポートをするような御予定はありますか。

【団体】実際、うちの家のところにはつばめが巣作りに来ていたんですが、

基地局ができてから姿が見えなくなりました。また、家の庭の植物の育ち方が以前と違います。実は、私 10 年前は野鳥の会に入ったりして植物観察をしたり、高山植物にも興味があって自然に対する感覚があります。だから自然にも影響が及ぶことは目に見えるものなので、野鳥たちはものすごく敏感ですから、好きな方がいれば一緒に調査もしていきたいです。実際隣に住むお宅では、葉っぱに点々が現れたり、花が付きにくくなったりとか感じていることがあります。そういった影響も約 300 メートル圏内と言われていています。そこに何が起きているか、生物は人間と違うセンサーをもっていて敏感ですから、気づいたところをチェックしながら人間に対してどうかなと考える 1 つのカギとなると思います。

【委員】 実際、以前との比較を記録として残していき、変化を確認していく活動ということでよろしいでしょうか。

【団体】 あとは体調を調査します。耳鳴り、めまいがあるという方がいるので、いつごろから始まったかを調査します。本当なら国が調査していかなくはないと思っています。それを自分たちが気づいたところでやっていきたいというところです。

【委員】 健康被害が出ているということ初めて聞いて大変ショックを受けている。話変わって細かい部分だが、収支予算見込書の支出の部で、備品購入費に電磁波測定費とあるが、これは機械ですか。

【団体】 これは電磁波に対して弱い方のために調べる手立てとして。

【委員】 電磁波測定器となっているので、機械ですね。

【団体】 自分たちで大雑把な測定はしたいと思っています。私たちが測定するには必要かと思っています。

【委員】 大磯町に携帯基地局はいくつくらいありますか。

【団体】 2月1日に町長と面談して、携帯基地局の会社に問い合わせたものの企業秘密で教えられないと回答を得たと伺っています。現状建っているところの調査をしていただけると大変ありがたいと町長から要望がありました。我々の活動としては、大磯町にどれだけの基地局があるのか、電磁波についての知識を広げていきたいというのがまず1年間の活動の趣旨です。

【委員】 今講演会のチラシが配られましたが、収支予算見込書に書かれている講師の謝金、チラシ用紙代とかはこれに充てているということよろしいでしょうか。これを6月10日に開催するということがよろしいでしょう

か。

【団体】 はい。電磁波とはどういうものかという初心者的な疑問にも答えてくださる先生なので、どう捉えていったらいいのか、皆さんの自己防衛の意味も含めてその先生を呼びたいと思っています。もし補助金が出なくてもその先生を自費で呼びたいと思っていました。自分や娘が被害者になって家や土地を離れなくてはならない、その理不尽さがあるので、そういう被害が起きないように皆さんに知識を持っていただきたいということでその先生をお呼びします。

【委員】 6月に講演会をすると1万円はそこで使うことになると思うのですが、それ以降の勉強会や基地局調査というのは特に費用はかからないですか。

【団体】 そうです。立ち上げたばかりですが、横溝千鶴子記念障害福祉センターを無料で借りられるので、そこで5、6回やりました。そこを拠点にして今後も続けるつもりでいます。

【委員】 電磁波の被害の状況に詳しくなく、今お聞きしたばかりですけど、おそらくこの問題は大磯だけでなく全国で起きているはずですよ。そうであれば、当然これに関わって活動している方たちもいると思いますが、そういった方たちとの横のつながりとか、連携とかはありますか。あるいは今後そのようにしていくとか。

【団体】 実は電磁波研に今年入りまして、記者の方がうちの状況を聞いてすぐに記事にしてくださいました。この団体は全国的な展開をなさっていて、事務局の方がいます。毎日この方の家には日本各地から問い合わせがあるそうです。そこでは月1回定例会があって、私は今年に入ってから毎月参加して、情報交換とか、それぞれの思いとか、どうしたらいいかなどの会合をしています。

【委員】 まだ立ち上げたばかりの団体ということで、長くやっているほかの地域の団体もあると思いますので、ぜひそういう方々の話を聞いて、どんな活動をしていくのがふさわしいか、情報を得たうえでやっていただけるといいと思います。

【団体】 我々もいろいろな情報を集めて、知識を増やしていきたいと思いません。昨年議会で陳情が通った後、議会事務局が調べたところでは26自治体がすでに条例とか要請文を出している。大磯町としては要請文を出して各携帯会社から回答を6社からいただいて、ホームページにも載っています。

そういう形で進めているのですが、現状、携帯基地局がどれだけあるのかということも勉強や調査をしながら、健康状態についての調査も含めてしていく必要があるのではないかと考えています。

【委員】 その基地局を設置している企業とも計測に来ていただいたことがあったという話がありますし、連絡を取りながらやっていくのがいい気がしました。今の時点では難しい話ですが、最終的な解決をしていくには企業との連携や協力が必要となると思いますが、そのつながりだとか、関わりみたいなものはどのようになっていますか。

【団体】 議員でいるときにグループを橋渡しするということがあつて、携帯会社の楽天の方と何度も話をしました。実際に会ったり、メールとか、電話で話をしましたが、彼らは進めたい、作りたいというのが先です。今回の要請文に対する回答でも社内の規定に沿ってやりますと。社内規定というのはオープンになっていないのでわからないのです。だから、現状、企業秘密だと言われると、自治体としてはそれ以上突っ込めないのです。だからそれで役場の人を総動員するかについては、職員もなかなか忙しいでしょうし、町長が調査をしてほしいとのことで、我々もやりたいことだったのでぜひやりましょうということで、今回補助金の申請をしたというのが経緯です。

【委員】 あらゆるところで電磁波は飛んでいると思いますが、基地局を建てるときにはおそらく近隣住民に許可を得たりしていると思いますが。

【団体】 許可ではないです、設置のお知らせです。

【委員】 結局携帯電話を持ってインターネットがつながって、利便性としてはすごく上がっていますが、人によっては電波に過敏な方がかなりいます。それに対しては、医療機関の連携だとか、過敏な人を保護していくとか、おそらく WHO では、電磁波はここまでなら安全というようにしていて、世界、国、県でもやっていることに町も基づいていて、携帯会社もまたそれに基づいていて、世界的に認められた電波の値をなし崩しにはできないと思います。過敏症の人を助けていくには、医療の連携の方がいいのかなと。そのような症状が出る人、出ない人がいるからです。人によってもいろいろな症状が出る人がいると思いますから、研究ではなく医療の方に向けられたらどうかと思います。基地局は建っているのですから、今からそれを退けると言っても、おそらく企業秘密や政治の力も加わることもあるだろうし、助けるとしたら医療機関との連携で輪を広げていった方がベストか

など私はと思いますが、その辺の考えはどうか。

【団体】 おっしゃる通りだと思います。ただ残念ですが電磁波過敏症というのは正式には認められていないのです。そういう症状を訴える方が、研究者によって違いますが、3.5～7%くらいいると言われていています。2012年に日弁連が政府に意見書を出している。これが裁判の証拠となって証明されるようになったときにはもう取り返しのつかない状況になっている。だから早く研究を始めなくてはいけない。今おっしゃられた医療関係も含めてやらなくてはならないと意見書が出され、1,180回の国会ですでに答弁されています。このような研究が必要だと。だけでも電磁波はスマートシティなんかで進めなくてはいけない部分があり、その兼ね合いだと思います。その電磁波による病気と、進めなくてはいけない開発との兼ね合い、これをどういう風にバランスをとっていかってことが重要ではないかと思えます。まずは、そういうことがあるということで我々が勉強して知っていく、理解をしていくというのが必要であろうと。だからと言って携帯電話を使わなくていいんですかと言われるとそうじゃない、1万分の1の基準の低い国、フランスやイタリアでも、ロシアもそうだし、使っているのです。だからどっちをとるかという乱暴な質問を受けるときもありますが、そうではなくて、共存をしていく方法を考える必要があるのではないかと、私は最終的にはそこにいくべきだと思っておりますけど、我々が勉強をして理解をしていくということが重要ではないかと思えます。

【委員】 研究となると、先ほど先生が言われたとおり大磯町だけではなくて神奈川県、また全国に広がっていく問題なので、位置づけとしてはちょっと低いのかなと。もっと拡大した考え方で輪を広げていかないと、おそらく大磯だけで騒いでいても、小さな問題で終わるのではないかと思えます。そこで、各都道府県、全国で連携していくことは考えられますか。

【団体】 そのような形にしていきたいと思えます。国にしても、大磯町の人間も国外の人間ではありませんので。先ほど申し上げたように議会事務局で調べた範囲では、26自治体、3自治会が要望書とか、電磁波の条例を作っています。そういう流れを少しでもしていかないと、国も答弁ではそういう研究が必要なことを言っています。ただ、開発に負けではいけないところがあって、海外との共存もありますから、国の後押しをしていくことが必要だと私は思います。そういうことをしながら、どういうバランスがいいか考えていくことが私は重要だと思います。まずは地域とか

勉強を含めて状況を把握する必要があるのではないかと思います。そのような活動をこの1年にしていきたいと思います。

○令和5年度審査事業ナンバー④

- ◆申請団体：谷戸川溪谷をきれいにする会
- ◆事業名称：谷戸川自然再生プロジェクト
- ◆事業効果、実施内容：企画提案申請書、収支予算見込書のとおり
- ◆補助金の交付希望額：137,000円
- ◆質疑応答

【委員】以前、平成29年度に申請されて今回2回目ということですが、間が空いたということは、コロナの影響とかそういうことなんでしょうか。

【団体】以前1年目に助成金をいただいて、道具である、のこぎりとか、草刈り機等々を買いました。当面はその道具で賄えたので、その翌年はお金がかからなかった。でもその後、道具は消耗品ですので、困ったときに他の団体さん、セブンイレブンとかの協賛してくれる業者様が応援してくださいまして、それでその間10万とか、20万とかをいただきました。それで現在に至っていますが、7年目ということで我々はひたすらのこぎりと用具で用地を片付けるという作業をして整備してきました。それは今後も続けるのですけれども、その中で崩れてしまった山、これを直すにはどうすればいいのか、今回は特にいろいろなプランがあって、お知恵やアイデアをもらったりしています。当然、基本的なスタンスは不法投棄されたごみを片付ける、倒れた竹を片付ける、その竹を使っていろいろおもちゃを作って大磯小学校、国府小学校のみんなに遊んでもらうとかそういう活動をしていく、ただ、そのままでいいのか、というのが今回の申請動機です。

【委員】事業計画で来年度植樹祭をやられて緑化作業を開始となっていますが、来年度は申請するかどうか未定ということですか。あと1回できるかなと思いますが。

【団体】今回この補助金の紹介を受けて申請しましたが、事業自体、実はもっと広くに掛かる話でございますので、今回の申請としては、主に現状調査が9割、来年度はもう少し補助金がどこでどう使えるかということをお勉強しながら、苗を買わないといけないなと思っています。苗を育てるところから考えているのですが、来年度にあたっては、別の補助金も探さない

といけないということも考えています。

【委員】 今までは清掃活動をやってきたけども、そこから一步踏み出して、もっと根本から解決していこうと、そのためにいろいろな費用が必要だということですね。

【団体】 そうです。

【委員】 本当に素晴らしい活動だなと前回も思いましたし、今聞いて、子どもたちの活動を見ながら、さらに今までやってきた次のステップに皆さんで進めていこうと決断されたのをすごいなと本当に思っております。ただ、植林の話も先ほど上がっていましたが、やっていくとなると時間的にもすごく地道な活動で、植樹まで踏み込んだら結構大変だろうなと思います。1つは会員が7人ということで、これだけ広くやっていたらもっと会員が増えていてもいいのではないかなという感じがしたのですが、会員募集の仕方や会員がなぜ増えないのか、今後の見通しとか、その辺を教えてください。

【団体】 こんなに素晴らしい活動をしてるのに、参加者は多いのに、会員に移行しないのはなぜかと思っています。おそらく、それはもう少し楽しさだったり、行きたいなっていう要素を加えるといいのではないかと思っております。それが植樹だなと思っています。つまり、植えるとあの木はどうなったかと見に来たくなります。それで、植樹をやっていきましょうというこのプロジェクトが、会員が増えるような対策になればいいなと思っています。

【委員】 すでにそのような課題認識をされていてよかったです。多分このような課題を持っているところはほかにもあると思います。そうした課題を克服されたところに視察に行ったりしてやり方などを参考にされるといいと思います。これだけしっかり活動しているし、会員が増えるのではないかと思います。担い手が増えることで、長期的な活動も安心して進められるのではないかなと思います。もう一つ予算書の中で、植生再生と管理方法の設計図として10万円の計上があるのですが、どういうことか教えてください。

【団体】 手順書みたいなものがあって、私も詳しくないのですが、大磯町で懸念している場所が今どのような状態でどのような段階であるか、例えば、ここは土留めして土壌に炭を入れますとか、間伐した木を下に植えるなどの手順を教えてくださいの手順書があります。その次に潜在植生が何である

か、種を拾ってどういうポットに入れて育てて、植樹が何センチの間に植えましょうみたいなところがあってというように、いろいろなマニュアルがあるのですが、大磯には大磯の土壌と気候があって、それにあったものを作ってあげないといけないので、それは既存のマニュアルの範疇外になってしまうので、必要なものです。

【委員】要するに、その設計図を作ってもらう費用という理解ですか。

【団体】そうです。

【委員】誰かに頼んで作ってもらう委託料、それが10万円ですね。

【団体】はい。

【委員】活動の内容を確認させていただいて、かなり自主性のある活動をされているのだなというところ、それから企業の財団の助成とか国の補助金とかを受けていて、自助努力をしてこられているのだなと思いました。ただ、会員さんが7人しかいない中で、いろいろなところの連携や情報収集は、どんな形で工夫し、実施しているのかを教えてください。

【団体】それは小学校とか、コラボとかそういうことですか。それとも行政とのことですか。

【委員】それも含めて、一般企業さんとの連携とか、そのようなところもどのようにしているか教えてください。

【団体】基本的には月に2回、第1水曜日と第3土曜日、時間は10時から12時までの2時間くらいの活動で、ただそこで集まれる人となると少ない。今後に対する課題としては、楽しみや励ましになるような細工をすること、そうしていけば来てくれるかなと思っています。あとは、今まで付き合ってきた小学生の子どもたちが友達を呼んでくる。また、企業の中で環境チームがある建築屋さんがありまして、そのプロジェクトとして横浜の横浜国際高校とかの高校生たちを呼んで来てくれています。そういった子どもたちが活動に感動してくれてまた友達を呼ぶっていうことで増やしたいというのが現状です。

【委員】日々のつながりというか、これまでのキャリアの中でのつながりも活用して色々発展させていくこと、また、会が存続していくには、継続的にある程度の人数の会員がいるっていうのは必須の要件になって来ると思っていますので、工夫しながら頑張ってくださいと思います。

【委員】私もこのような業界にいて、平塚で金目川クリーンキャンペーンというものを小学校と自治会を巻き込んでやっています。もう10数年ですけ

ど、卒業しても学校の教育のプログラムに継続して入れてもらっているということで、河川をきれいにしましょうということをやっていただいています。これを見ますと、学校が絡んでいますから、できれば自治会とか、いろいろな法人のクラブがありますので、そこに声をかけたりしてもらいたいです。わたくしどもも各企業さんから支援金をもらって活動費にあてていました。河川がきれいになれば、ハイキングコースにもなっていくしますので、ぜひ自治会や法人のクラブにどんどん声をかけて活動を広げてもらいたいなと思います。

【団体】 この国際高校はすでに授業の一環としてこれが含まれているのと、先ほどの古道山道つなげ隊と連携をしていくと活動の幅が広がるし、素敵なイラストなんかも便乗させていただきながら宣伝して、面白さを伝える企画にして人を呼び込めるのではないかと考えています。先ほど今後のこととおっしゃっていましたが、実は森にするのは大体100年くらいかかる。プロアクティブに専門の先生を呼ぼうというのはそういうことですが、3年から5年で自律する森づくりというのできるの、人間の知恵で育てて森にしようというところ、どうしても潜在植生として賄いきれない杉なんかを自然の力を借りて元の力に戻そうというところに楽しさとか未来性とか、特に若い方に感じてもらえたらいいなと思っています。

【委員】 ぜひ続けてください。

【委員長】 それでは以上で終了させていただきます。

以上